

平成26年度当初予算における政策的新規・充実予算枠要求事業の内容と査定結果【予算措置を講じたもの】

(単位：千円)

事業名	建設局予算要求の内容		査定結果	
	事業概要	要求額	査定額	内容
「歩いて楽しいまちなかゾーン」の推進	<p>歩道整備が困難な都心の細街路において、自動車走行速度を低減させ、安全でゆとりのある歩行空間を創出するとともに、通行空間の分離による自転車通行空間の整備や歩行者の円滑な通行の確保を図るため、幹線道路に囲まれた地域を「歩いて楽しいまちなかゾーン」と設定し、都市計画局と建設局等が連携して、車線幅員の狭小化(路側帯の拡幅)、自転車通行部分の明示、ゾーンの出入口に看板の設置等を実施する。</p> <p>平成26年度の建設局の具体的な事業内容としては、平成25年度完成予定の「歴史的都心地区」(四条通、河原町通、御池通及び烏丸通で囲まれた地区)に隣接する南側エリア及び西側エリアにおいて、区画線の引き直しやカラーライン等による車線幅員の狭小化(路側帯の拡幅)を行うとともに、自転車通行部分の明示等を行う。</p>	40,500	40,500	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査
神宮道及び岡崎公園の再整備	<p>歩いて楽しい岡崎地域のシンボルとなる、憩いと新たな賑わいのある歩行者空間の創出のため、神宮道(冷泉通～二条通)を隣接する岡崎公園に取り込み一体的に再整備する。</p> <p>平成26年度は詳細設計を行い、工事に着手する。</p>	208,800	185,800	<input type="checkbox"/> 要求どおり <input checked="" type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査
LED道路照明灯の設置(更新・新設)	<p>京都市では、水銀灯や蛍光灯など約80,000基の道路照明灯を管理しており、道路照明灯の維持管理に年間約7億円の経費がかかっているが、コスト縮減、節電及び低炭素化に向けてLED灯への転換に取り組んでいる。</p> <p>生活道路に設置している市街灯については、平成24年度からLED灯で新設し、平成25年度からは既設市街灯をLED灯に更新している。また、幹線道路に設置している水銀灯についても、平成25年度からLED灯で新設・更新している。</p> <p>平成26年度は、引き続き、生活道路及び幹線道路において、LED灯で新設・更新していく。</p>	999,600	877,000	<input type="checkbox"/> 要求どおり <input checked="" type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査

(単位：千円)

事業名	建設局予算要求の内容		査定結果	
	事業概要	要求額	査定額	内容
いのちを守る都市基盤 防災・減災対策プロ ジェクト 災害防除（緊急輸送道 路における道路に面す る斜面等の防災対策）	道路は、災害時の避難・救援、その後の復旧・支援活動の要であり、重要な社会基盤施設である。 平成23年3月に発生した東日本大震災や近年多発する局地的集中豪雨等の被害を目の当たりにして、災害に強いまちづくりに向けた防災対策のスピードアップは喫緊の課題であり、災害時においても、健全な都市機能が確保できるよう、平成26年度は以下の取組を進める。 ○災害防除（道路に面する斜面等の防災対策）	572,400	572,400	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査
いのちを守る都市基盤 防災・減災対策プロ ジェクト 排水機場耐震改修	排水機場は浸水被害から都市を守るための重要な社会基盤施設である。 平成23年3月に発生した東日本大震災等の被害を目の当たりにし、災害に強いまちづくりに向けた防災対策のスピードアップは喫緊の課題であり、災害時においても、健全な都市機能が確保できるよう、平成26年度は以下の取組を進める。 ○排水機場耐震補修	58,200	52,700	<input type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input checked="" type="checkbox"/> 事業内容精査
いのちを守る都市基盤 防災・減災対策プロ ジェクト いのちを守る橋りょう 健全化プログラムの推 進	橋りょうは、災害時の避難・救援、その後の復旧・支援活動の要であり、重要な社会基盤施設である。 平成23年3月に発生した東日本大震災の被害を目の当たりにして、災害に強いまちづくりに向けた防災対策のスピードアップは喫緊の課題であり、災害時における都市機能の確保を図るとともに、平常時においても市民生活を守るため、プログラムに基づいた耐震補強・老朽化修繕を計画的に進める。 平成26年度は以下の取組を進める。 ○橋りょうの耐震補強・老朽化修繕	3,152,100	3,042,100	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査
市役所前広場地下機械 式自転車駐車場整備工 事	市庁舎建替えに伴い、寺町臨時自転車駐車場が閉鎖されるため、周辺の放置自転車対策として、市役所前広場西の地下に自転車駐車場を整備する。	159,900	138,800	<input type="checkbox"/> 要求どおり <input checked="" type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査

(単位：千円)

事業名	建設局予算要求の内容		査定結果	
	事業概要	要求額	査定額	内容
京都駅南口駅前広場の整備	<p>本市最大のターミナル駅である京都駅の南口駅前広場において、交通結節機能の向上や、安全で快適な歩行空間の創出等により、「歩くまち・京都」の玄関口にふさわしい駅前広場の整備を推進する。</p> <p>平成26年度は、機械式地下駐輪場や駅前広場整備工事を行うとともに、整備中を含めた駅前広場の適正利用に係るマネジメント組織運営等を行う。</p>	1,404,100	1,404,100	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査
無電柱化事業	<p>本路線は、本市有数の観光地である嵯峨嵐山地区を、渡月橋から嵯峨釈迦堂前へ、その中心を縦断する観光道路であり、沿道に天龍寺、嵐電嵐山駅、オルゴール博物館等の観光資源を有するメインストリートとして多くの観光客で賑わっている。本事業において本路線の無電中化を実施することにより、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観及び都市防災の向上を図るものである。</p> <p>(道路延長L=180m、電線共同溝延長L=180m、道路幅員W=4~5m)</p>	7,000	14,300	<input type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input checked="" type="checkbox"/> 事業内容精査
緑視環境向上プロジェクト 紅葉景観創造事業	<p>スズカケノキは、老朽化が進み、特有の害虫（プラタナスグンバイムシ）による被害も深刻化している。</p> <p>老朽危険木対策、害虫対策、景観対策（紅葉街路樹二段階剪定）の観点から、紅葉の美しい他の樹種への転換を図り、まちなかに潤いのある良好な沿道景観を形成することで、緑豊かな空間を創出し、緑の質を向上させ、「緑の豊かな歩いて楽しいまちづくり」を推進する。</p> <p>平成26年度は、スズカケノキ140本を更新する。</p>	56,400	56,400	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査
名勝円山公園保存管理計画策定	<p>京都市の貴重な文化遺産である名勝円山公園（面積86,641㎡）の歴史的環境を適切に保存・管理するための方針や方法等、将来的に必要な再整備を行うための指針となる計画を平成26、27年度の2箇年で策定する。</p> <p>平成26年度は、管理保存計画の策定のための現況調査、分析、検討委員会開催を行い、平成27年度に方針のとりまとめを行うとともに、計画を策定する。</p>	3,200	3,200	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査

(単位：千円)

事業名	建設局予算要求の内容		査定結果	
	事業概要	要求額	査定額	内容
いのちを守る都市基盤 防災・減災対策プロ ジェクト 普通河川緊急対策事業 (8河川)	治水対策に重要な役割を持つ河川改修は、多額の費用と時間を要し、上流部の改修の影響で下流が氾濫することがないように下流側から順次整備を進める必要があるため、事業期間が長期に及ぶ。このような背景を踏まえ、過去30年間に浸水被害が発生した河川のうち、まだ本格的な対策に着手できていない8つの河川を対象とし、降雨に対する河川の安全の度合いを調べる、より専門的な治水安全度調査を行い、河川ごとの特徴を踏まえた整備方針を定めた、「普通河川整備プログラム」を平成25年10月に策定した。 本事業は、「普通河川整備プログラム」に基づき、局所的な対策で地水安全度の向上を図る工事や、河川改修等の事業実施に向けた設計等を行うものである。	75,800	75,800	<input checked="" type="checkbox"/> 要求どおり <input type="checkbox"/> 積算内容精査 <input type="checkbox"/> 事業内容精査